

# 北 どころ

第11号 2017年2月1日（毎月1日発行）

## 県北群星伝⑧ 寺遊自感の和尚さん

たかはし どうえい

### 高橋道英 52歳（庄原市是松町）

平成二十三年三月十一日、未曾有の大災害に日本中が震撼した。あの東日本大震災から、六年の歳月が経過しようとしている。

住職の高橋道英さんが初めて法要コンサートを開いたのは、平成二十六年三月十一日。最初は「追悼法要」だった。

今年の三月四日の土曜日に、庄原市是松町にある曹同宗の寺院「萬福寺」で、恒例となった「東日本大震災復興祈願法要」が開催される。午後一時から「喫茶萬福寺」でお茶会、二時から坐禅と法要、三時からライブコンサート。今年の出演は藤江潤土さん、広島在住のシンガーソングライター R.C.C（中国放送）のアナウンスラー、横山雄二さんが、東



日本大震災の復興支援チャリティライブを毎月一回、「ライブカフェJIVE」（広島市中央区）で開催している。その「ヨコヤマ☆ナイト」には、多くのミュージシャンが手弁当で参加。入場料収入は全額、被災地に寄付されている。

二年目からは「復興祈願法要」と名前を変えて、催しは継続。平成二十七年のフリーフェイス、今回の藤江潤土さんは、高橋さんが「ヨコヤマ☆ナイト」で知り合い、声をかけたミュージシャンだ。出演料無料の友情出演。

高橋さんも「ヨコヤマ☆ナイト」にお客の一人として通っていた。被災者のために自分も何かをしたい。JIVEのオーナーである上綱克彦さん（柳ジョージ&レイニーウッド元リーダー）と知己の高橋さんは、横山雄二さんや出演者の人たちと面識を得て、ライブ会場のステージに立つようになった。「田舎町の和尚さん」の法話を、観客はあたたかく受け入れてくれた。

昨年光永ファミリーコンサートの法要は、安部龍正さん（庄原格致高校三年）により撮影され、第38回「よみうり写真大賞」の高校部門1席に選ばれた。「二人の女性が住職さんと思いを通わせる姿や演奏に合わせ歌う姿から、復興への願いを強く感じた。」との審査員評が一月八日付の読売新聞に掲載されている。光永ファミリーは、庄原出身の光永武夫さん（元京都市交響楽団ファゴット奏者）を中心とする家族楽団で、武夫さんは高橋さんの母方の叔父にあたる。

新屋まりさんの「ここで歌いたい」という言葉が、高橋さんの想いと重なった。被災者、被災地に対する想いを、できるだけ多くの人と共有したい。ポスターを作成して、檀家さん以外にも来場者を募った。入場は無料だが、募金箱を設置して義援金を被災地に届けた。広島県曹同宗青年会の後援を受け、趣旨に賛同した僧侶も参加してくれた。

高橋家は祖父の代から萬福寺の住職をつとめていて、道英さんで三代目。三十一歳のときに神石高原町にある天徳寺の住職として、妻子と一緒に移住。萬福寺の住職を父親から継いだあとも、天徳寺の住職を兼務している。寺院の

世界でも、後継者難は深刻だ。過疎による人口減少はそのまま檀家の減少を意味している。

お寺として、僧侶として、もっと何かできることはないか。「寺遊自感」という言葉が生まれた。お寺に気軽に遊びに来て、何かを体感してほしい。自由時間の楽しいイメージを重ねた造語である。お寺での落語会や絵本の原画展を企画、「寺遊自感」を実践している。

「自分のためにやっているのかもしれませんね」

復興祈願法要を続ける動機を尋ねたときに、高橋さんはそうつぶやいた。人々の脳裏から、大震災の記憶は年々薄れてしまっている。忘れてしまいたいという想いもあるのだろう。日々の生活に追われて、何もできない自分に対する無力感。復興祈願法要は、そうした鬱屈した気持ちの救済でもある。入場者は毎年、五十人を超えている。

祈ることでは何も変わらないかもしれない。しかし、宗教宗派の壁を越えて、祈ることの意義を、忘れないうことの大切さを、八月六日に黙祷を捧げる一人として、わたしも信じている。

※高橋さん創作の法話「雨上がりの出逢い」が、RCCラジオ「今日のこころわたしのこところ」で放送されます。二月二十五日（土）、午前六時二五分〜三〇分。

## 図書館員ノート ⑥

# 「どくしょつうちょう「りんごの木」

君田で一番古い建物だった図書館が、平成二十一年に君田生涯学習センター内に移転オープンした。白い壁に緑のカーテンと床。静かにゆっくりと本を選び、読んでもらえる明るい館内となっている。

「皆さん（書架の本）お早うございます。今日も市民の皆さんに一人でも多く読んで頂き暮らしの役にたちますように！」とひとりで朝会をし、館内の観葉植物に「今日もよろしくね。」と声かけをして私の一日が始まる。

私が今力をそそいでいるのは、図書館での取り組みのひとつである「どくしょつうちょう」だ。読んだ本を記入して百冊になれば顔写真入りの「認定証」を渡すというもの。同時に、図書館内の「りんごの木」に写真入りの「りんごの実」を貼り紹介している。

昨年四月から君田小学校とも共同で取り組みを始めた。小学校では全校朝会で一人一人に認定証を渡し、各教室へ掲示され読書の励みとなっている。今年度はもう三十人の達成者がある。

もう少しで千冊になる人もいる。始めの頃はおばあちゃんが手伝っ

て記入していたが、就学前ごろになると自分で書き、文字で成長がわかる。今ではきれいな文字で感想も書き込まれている。その子の姿を見るにつけ、読書が成長の一助になっていると感じ嬉しくなる。

また二百冊〜三百冊と冊数を伸ばしている子どもも多く、このまま中学生になっても継続して欲しい。この「どくしょつうちょう」は市内8図書館に置いてあって無料で配布しており「この本、よんだかな？」など覚書にも利用できるので大変便利である。読書生活の一部に是非取り入れられて、より充実した暮らしをして頂きたい。そして、多忙な毎日の暮らしの中でほっと出来て心の癒しにもなる、図書館づくりも目指している。

「今日もありがとう。」とひとり暮会で締めくくり、手を振りながら大好きな図書館を後にする。

三次市立君田図書館 K・H



# 『非凡なる凡人』

## ——平凡の中に見つけた宝物

短編なのにずっと気になっている小説があります。国木田独歩『非凡なる凡人』です。長い人生で将来の選択に迷った時に、この小説が思い出されたものです。

この小説は、血気盛んな少年期には私を引き留めるこしやくな奴でした。青年期には私を振り向かせ、壮年期には一目置くこととなり、いくつかの経験を重ねた今では「人生とは、そういうことなんだ」と思わせるのです。

では、この「非凡な凡人」とは、どんな人でしょうか。作者国木田独歩が友人4、5人と寄ったとき、その1人が忘れられない人として語った、という設定です。登場する男は、「桂正作」といいます。この作品が世に出たのは、明治の半ばです。

正作は、身辺のことに何くれとなく工夫し、小説『西国立志編』を愛読しています。『西国立志編』というのは、英国人スマイルズの『自助論』を翻訳した啓蒙書で、自主と勉勵を勧めています。明治の青年には福澤諭吉の『学問のすすめ』と並ん

で人気がありました。正作は小学校を卒業すると、隣町の銀行に職を得て2里(8キ)の道

その必要品を粗略にするほど、東洋豪傑風の美点も悪癖も受けていない。今の流行語でいうと、彼は西国立志編の感化を受けただけにすこぶるハイカラ的である」と。桂正作は、夜学を卒業し、目指していた電気の技師になったのでした。

### また読んでみたい本⑪

#### 少年少女たちへ

音谷 健郎



【国木田独歩】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第11回目は『非凡なる凡人』です。もし興味を持ったらぜひ読んでみてください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

を往復します。給料は4円か5円。その中から上京の自動車賃や職を探す間の3ヶ月の生活費を貯めて、上京を実行します。東京では新聞配達をしながら夜学に通います。粗末な下宿だが、書籍を大切にし整然と重ねているのです。友人は評して、「彼は

それだけではなく、郷里から出てきた気ままな弟を引き取り3年間、根気よく面倒を見て、まじめに働くようにしむけたのでした。友人は、彼のことを「彼ほど虚栄心の少ない男は珍しい」「決して自分と他人とを比較しない」「自分は自分だけのこと

をなし、運命に安んじて運命を開拓していく」と見たのでした。

独歩は、「平凡なる社会がつねに産出しうる人物である、また平凡なる社会がつねに要求する人物である。であるから桂のような人物が一人殖(ふ)えればそれだけ社会が幸福なのである」とも言っています。

明治という時代は、日本の急テンポな発展期であり、立身出世が時代の風潮でした。そんな時に、市井に埋もれて黙々と生きる正作と、そのような人物に目を向けた独歩はエライと思います。

この精神は、宮沢賢治の詩「雨ニモマケズ」と相通じるところがあると思います。賢治は、「ミンナニゴクノボートヨバレ ホメラレモセズ クニモサレズ サウイウモノニワタシハナリタイ」と願っています。こちらの詩も、子どもの頃には、「何だちつとも夢がない」と思っていたものです。ちなみにこの詩の成立は、賢治の死の2年前、1931(昭和6)年です。

私は、『非凡なる凡人』につられるように、「忘れえぬ人々」「富岡先生」など読み、感銘を受けました。独歩は、短編の名手といわれていたと、後から知りました。

「秋彦、なんだか元気がないようだけど」

食後のお茶を飲みながら、台所にいる奈々子に声をかけた。

「学校でからかわれたらしいの。お義父さんがね、空を飛ぶ鯨のことを話したらしいの。あの子、それを真に受けちゃって、学校でみんなに話しちゃったのよね。海を泳ぐ鯨が空を飛ぶはずがないって、みんなから嘘つき呼ばわれしちゃって。あの子、負けず嫌いなところがあるから、じゃあ、先生に聞いてみようと言いだして……」

奈々子が台所から顔を覗かせた。

「お義父さん、ボケちゃったんじゃないでしょうね」

真顔だった。近くのアパートで暮らしている父親の顔が浮かんだ。

(だったらいいんだけどな)

心のなかでつぶやいた。たぶん確信犯だ。孫の秋彦に対する、そしておれに対するメッセージ……。

お茶を飲みほして、立ち上がった。廊下に出て、秋彦の部屋のドアをノックした。

「お父さんと一緒に、鯨を見に行かないか。空を飛んでいる鯨だ」

ドアを開けた秋彦の大きな瞳が、さらに大きくなった。

「鯨の形をした飛行船のことだよ」

中国やまなみ街道を、車で北に向かっていた。瀬戸内にある広島・尾道と、山陰にある島根・松江を結ぶ無料の高速道路だ。尾道松江線とも呼ばれている。

「あのラピュタに出てくるような？」

「そうだ。鯨の形をした大きな風船に

たもの」

親父らしいと思った。詐欺師のよ

うに口がうまいのだ。舌先三寸でスポンサーを凋落して、国内外の遺跡の調査費用を捻出していた。家に帰ることもほとんどなかった。母子家庭のように、おふくろがスーパーのレジのパートで生活費を稼いで、おれを育ててくれた。おれが公務員に

だった。悪い天気るときほどよく当たる。

曾根公夫くんはどうしているだろうか。小学生のときの背が高くてひよろりとした同級生のことを思いだした。今の秋彦と同じ小学三年生のクラスだった。夏休みの宿題で、月の観察日記が出た。夜に見た月の輪郭を描いて、黄色のクレヨンで塗りつぶした。

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

## 「空飛ぶ鯨」

あきふゆひこ

亜木冬彦

現代御伽草子⑩

ガスを入れて、空に浮かんでるのさ。お父さんも子供の頃に一度、見たことがある」

「本当の鯨じゃないの？」

不満そうだった。

「じいちゃんは、本物の鯨だと言ったのかい？」

秋彦はしばらく考えていた。

「だって、飛行船だなんて言わなかつ

なったのも、親父が反面教師だったからだ。

「これから見に行くのも、鯨の飛行船？」

「いや、本物の鯨だ。自分の目で確かめてみるといい」

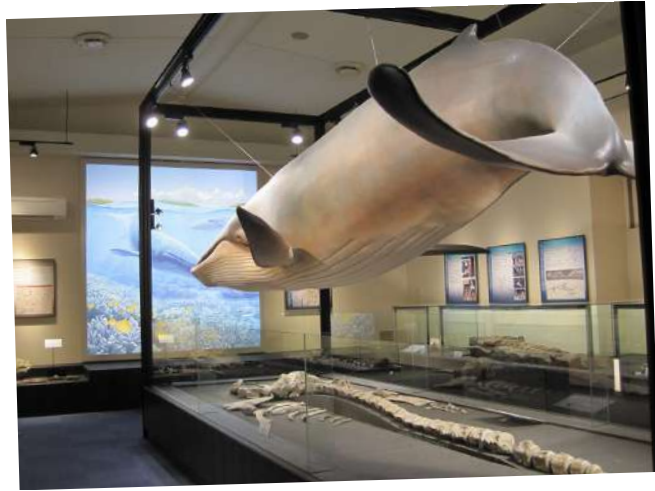
家を出るときは雨だったが、それが曇（みぞれ）になり、いつの間にか雪に変わっている。天気予報通り

曾根くんのノートを見て驚いた。月が黄色くなかった。白い月の中に、なにやら模様のようなものが画き加えられている。そんなはずはないと、夜になってまじまじと月を見た。満月だった。肉眼でも、丸い月の中にある模様がよく見えた。鱗が落ちたのだ。

家庭の事情で秋口に転校して以来、曾根くんには一度も会っていない。家庭の事情……、あれはたぶん、夜逃げだったのだと思う。アパートが前より狭くて汚くなり、表札の名字が変わった。しかし、生活は何も変わらなかった。

曾根公夫くんはどうしているだろうか。

展示室の中に入ると、秋彦が歓声を上げた。巨大な鯨が部屋の中央に



浮かんでいる。そばに寄って、しばらく見上げていた。自動センサーが働いてスイッチが入ったのか、神秘的な効果音や潮の音、鯨の鳴き声が聞こえてくる。鯨の腹部にライトを当てて、海中の光のゆらめきを再現している。

「よくできていているけど、本物じゃないよ。だって、ワイヤーで吊っているもの」

秋彦が抗議するように言った。  
「下を見てごらん」  
巨大な鯨の模型の下にあるガラスケースを指さした。

「そう、本物の鯨の化石だ。この地方で発見されたんだ」

「こんな山の中で？ 本当に鯨が空を飛んだの？」

「いや、泳いでたんだ。ずっとずっと昔は、この辺りは海だったのさ。鯨以外の海の生物の化石もたくさん見つかった」

「どうして海が山になっちゃったの？」

「お父さんにも詳しいことはわからないが、地殻変動というものがあって、何百万年、いや、何千万年、何億万年という単位では、陸だったところが海になったり、海だったところが山になったりしているんだ。地球も生きている。詳しいことが知りたいんだったら、本を買ってあげよう」

秋彦の顔が輝いた。

「そうか、昔のここは、海が空だったんだね」

悪くないと思った。自分の目で確かめて、考えて、自分なりの答えを見つけてほしい。常識や固定観念に囚われてはいけない。他人の言葉をそのまま受け入れてはダメだ。状況を冷静に判断して、臨機応変に対応しなくてはならない。

「今度は山鯨を見に行こうか」

「山の……、くじらっ？」

「そうだ、山の鯨だ」

猪のことだ。獣肉を食べることがタブーだったときの方便だ。この博物館には、猪の剥製も展示されているはずだった。

「昼は山鯨の鍋でも食べてみるか」

秋彦が大きく眼を見開いた。その瞳の奥に、小さな赤い点がある。成長するにつれて拡大して、やがてルビーのように緋色の光彩を発するようになるという。そうなる前に、カラーコンタクトでカモフラージュする必要はある。

親父がおまえを連れて来たことを感謝している。おまえの父親になれたことを感謝している。秋彦、おまえが何ものであっても、おれたち夫婦の子供だ。一緒に生きてゆこう。

※【比和自然科学博物館】庄原市比和町にある市立の博物館。中国山地の生き物たちや世界の蝶、甲虫などを展示している。とくにモグラの資料が充実していて、モグラ博物館の愛称で呼ばれている。同じ敷地内にある地学分館には、岩石や鉱物の他にも、千六百年前に中国山地一帯が海だったころ回遊していた鯨の化石が展示されている。

まちなか本屋さん  
どろ書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

- ・無料本、百円本、50円本などのコーナー。無料の漫画ルームもあります。
  - ・地元のポストカード、新鮮野菜の店頭無人販売もやっています。
- ※九日市の開催日は定休日でも開店します。

- 庄原市中本町2-1-10
- 定休日：毎週月・火曜日
- 営業時間：9:30~19:00
- TEL:090(9913)3052

※広島銀行庄原支店の手前（三次側から）※交差点角のまちなか駐車場が使用できます。

<広告料 1/4 ページ 1回 2,000円 半年間 9,000円 1年間 1,5000円>



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

## 「脳男」

首藤瓜於 著 講談社

読み終えたあとの衝撃を今でも覚えている。第46回江戸川乱歩賞作品。連続爆破事件の容疑者のアジトに警察が踏み込むと、その容疑者と格闘している男がいた。彼はその供述内容から共犯と見なされ精神鑑定を受けるが、徐々にその異常性が明らかになってゆく……。

一度目にしたものはすべて記憶してしまう天才的能力の持ち主だが、感情と呼べるものは一切持っていない機械のような男が主人公。「脳男」の所以である。続編の「指し手の顔 脳男2」で事件の全貌が明らかにされるという、受賞作としては前代未聞の「禁じ手」にもびっくり。推理小説の枠を超えた異色作である。



## 「高丘親王航海記」

澁澤龍彦 著 文藝春秋

マルキ・ド・サド「悪徳の栄え」の翻訳で知られるフランス文学者の幻想小説。高丘親王は平城天皇皇子で、仏門に入って空海の弟子になり、唐に渡って天竺を目ざしたとされる実在の人物。

人語を話す儒艨（ジュゴン）、顔は女で体は鳥の迎陵頻伽（かりょうびんが）、人の夢を食べる猿、貴重な薬品の原料として密漁される砂原の蜜人（ミイラ）等々、耽美で魅惑的な世界が構築されている。この旅行記の結末は、咽喉がんで声を失い、死を意識していたであろう作者の夢想だろうか。1987年に発表されたこの小説は遺作であり、翌年、読売文学賞を受賞。



## 「リアル」

井上雄彦 著 集英社

「スラムダンク」で知られる作者のもうひとつのバスケットボール漫画。車イスバスケという難しい題材を、身障者の現実をリアルに描くことで、ズシンと腹の底に響くような人間ドラマになった。

骨肉腫で足を切断、陸上選手から車イス選手になった戸川清春。高校のバスケ部の選手だったが、バイク事故で他人を下半身不随にしまい、高校を中退した野宮朋美。高校のバスケ部のキャプテンだったが、盗んだ自転車トラックと衝突、下半身不随になった高橋久信。それぞれのドラマが熱くて面白い。2014年末の14巻を最後に、新刊が出ていないのが残念だ。



## どら書房 << 貸本屋システム >>

- ・ 店内で販売した本は、どら紙幣（店内専用通貨）であれば半額、現金であれば3割で買い戻します。※破損や汚れがあれば値引
- ・ 書籍購入⇒読了⇒どら紙幣と交換⇒新たな書籍購入、貸本のような感覚でご利用ください。

## どらくる俳壇

風花の舞いに序破急ある如し

近藤 昌平

「転ぶなよ」念仏のごと雪の道

原博己

着ぶくれの正座の膝を崩しけり

片岡 正人

雪かきは米寿の朝の腕試し

隆愚

吹雪く夜は膝を抱えて猫になる

赤川 冬人

## 投稿&寄稿

「序破急について」 近藤 昌平

日本の稽古事には剣道、柔道、華道のように「道」のつくものがあります。

「序破急」は日本の稽古ごとの三段階をストリー様式になぞらえたものです。

ことが起こって発展し、それに何らかの仕掛けがともなつて結末に向かつていくのが、ストリーの基本です。

「風花」は俳句の季語です。

雲もなく晴れているのに、雪片が舞うことをいいます。

その風花の舞いに「序破急」の掟がありと見たのが、今回の句です。

「序破急」は、太鼓打ちのリズムの表現にもよくつかえます。

「雪靴」 富久光

父が作ってくれる雪杓は上から下までほぼ寸胴型で

お世辞にも格好よくなかったが膝小僧が隠れるほど長くて

新しい藁の匂いと

柔らかい藁の感触がたまらなく好きで

無骨な父の大きな手で支えられている

そんな思いが今も鮮やかに私の中で息づいているのです

## どら書房委託販売コーナー

### ★「天馬書林」

新書の教養書と戦争関連本、ノンフィクションが充実。

### ★「サワちゃん文庫」

中国、日本の歴史書、思想書が中心のラインアップ。

各専用棚で好評販売中!

今月のどらさん



絵・風太

「大雪の想い出」 M・A

年末に夫婦で帰省したときだった。京都や奈良に立ち寄って、大阪から高速バスに乗った。予定では、夕方までには庄原に到着して、晩御飯に間に合うはずだった。しかし、大阪を出るときに降っていた雨が、中国道を進むにつれて雪に変わった。それが、猛烈な吹雪になった。高速道路が通行止めになり、バスは一般道を迷走した。

どうにか庄原のインターチェンジまで到着したときには、夜中の二時を過ぎていた。真っ暗な雪道を、自宅まで歩いて帰るわけにはいかない。まして、奥さんを連れている。今にして思うと、そんな状況下で乗客を放り出してしまったバス会社の対応にも腹が立つ。

なんとかしなきや。見知らぬ人に頭を下げて、迎えに来てくれる車に同乗させてくださいと頼み込んだ。引っ込み思案で人見知りする性格なので、自分ひとりだとそんな勇氣は出せなかったかもしれない。

幸い、声をかけた人が良い人で、快く同乗させてもらい、実家まで無事に帰ることができた。今では懐かしい想い出になっている。

## 《情報＆原稿を募集します!!》

- 仲間募集
  - 教室＆講座案内
  - イベント情報
  - あなたの大切な本の紹介
  - ボランティア・ライター(現地記者)募集!
- どらくろあで地元の記事を書いてみませんか?

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

## 『庄原メイプルラジオ』

毎週日曜日  
13時～放送中!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の  
何気ない日常の話と地域の情報や  
ゲストを招いて放送する地域密着  
エンタメ放送!!

YouTube

和家チャンネル:



## 陶芸教室

# どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など  
情報掲示板です。

自作のお茶碗で  
お茶を飲んで  
みませんか?

- 金・土・日曜日開催
- 場所…県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用…一回500円+材料費
- 連絡先…0824(74)0686 洲沢(スザワ)

## — 参加者募集 —

### MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

みよし運動公園の屋内&屋外コートで、硬式テニスの例会を行っています。

- ・ 火曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 水曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 土曜日 (12:00 ~ 14:00)

入会金、会費等は必要なく、コート利用料だけを当日の参加者で分割負担。現在、50人をこえる会員がいて、ご自分のペースでエンジョイされています。例会だけではなく定期的にMTECの大会や他の地域のテニスクラブとの交流会を開催。興味のある方は、一度、例会にご参加ください。見学も歓迎します。

連絡先: 中川 (☎080-5610-2376)

## どらくろあ ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、  
ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



## 編集後記

◇寒い日が続いていま  
す。今年は一月二十日  
が大寒でした。実は、  
わたしは一月末の生ま  
れなのですが、寒さに  
はからつきし弱いので  
す。生まれた季節は関  
係ないのでしょうか。  
とくに雪の日は、お客さんも  
さらに減って、身体も店内も  
寒々としている……。  
◇わが家の飼い猫、ドラマの  
テーマソングは「嵐を呼ぶ  
女」。「あたいはドラマ、ヤク  
ザなドラマ、あたいが怒ると  
嵐を呼ぶぜ」。耳元で歌うと  
……、反応はありません。歌  
に合せて踊ってくれる日を  
夢見て口ずさんでいます。  
◇トランプさん、しゃべれば  
しゃべるほど下品になる。「沈  
黙は金」という言葉は、アメ  
リカにはないのでしょね。

発行: どら書房  
〒727-0012  
庄原市中本町 2-1-10  
☎090(9913)3052(赤川)  
e-mail: touzin@sannet.ne.jp  
年間購読料: 2,000円(郵送料込)

誌面デザイン: ROUTE183  
協賛: 九日市愛好会

# 九日市だより

桑斤 庄原

## こつこつ16年 県の地域づくり賞を受賞



庄原市中心部の商店街で開かれた九日市の初市

# 庄原「九日市」初市にぎわう

庄原市中、西本町の商店街で毎月9日、開かれている「しよばら九日市」の今年の初市が9日あった。16年にわたる地道な活動が認められ、主催する市民グループ九日市愛好会は昨年12月、「県いきいき地域づくり賞」を受賞。同会は「受賞を励みに、今後も続けていきたい」と意気込む。(伊東雅之)

## 農産物や手芸 30店並ぶ

3年前から地元海産物を販売している浜田市の山本夏子さん(67)は「魚の特徴や調理の仕方などの話から常連さんも増え、毎回出店

初市には、野菜、果物、水産加工品、総菜、菓子、骨董、手芸品など、およそ30の出店が並んだ。小雨の中、朝から主婦や家族連れが次々に訪れた。七福神の「大黒」も現れ、

するようになった」と話す。近くの主婦横山順子さん(71)は「お得な商品が多い上、客同士も顔見知りになり、会話を楽しめるのも良いところ」と語る。九日市は16世紀後半、塩や海産物、農産物を物々交換したのが始まりとされる。毎月9、19、29日に開かれたが、戦時中に途絶えた。「空き店舗を利用し、かつてのにぎわいを取り戻そう」と市民たちが2001年、毎月9日に復活させた。地元14店のスタートだったが、三次や広島、尾道、岡山、愛媛県今治市からも出店。40店ほどが並ぶ今では、市外から半数以上を占める。九日市は今年9月、通算200回を迎える。愛好会の寺岡隆行会長(86)は「さらに庄原を元気にするため、市民の出店も積極的に呼び掛けていきたい」と話している。

※中国新聞1月10日「県北版」に掲載、転載許可を得ています。



「しよばら九日市」が広島県知事から「広島県いきいき地域づくり賞」を受賞しました。皆様のおかげです。これからも、ご鼻屑によりしくお願い申し上げます。

九日市愛好会会長 寺岡隆行  
他スタッフ一同

第193回

# しょうばら 九日市

平成29年

トピックス

2月9日 (木)

9:00~13:00

★ 市民ギャラリー「アート多愛夢」では  
庄原子ども美術館 絵画教室作品展  
時 2月8日(水)~9(木) 10時~16時

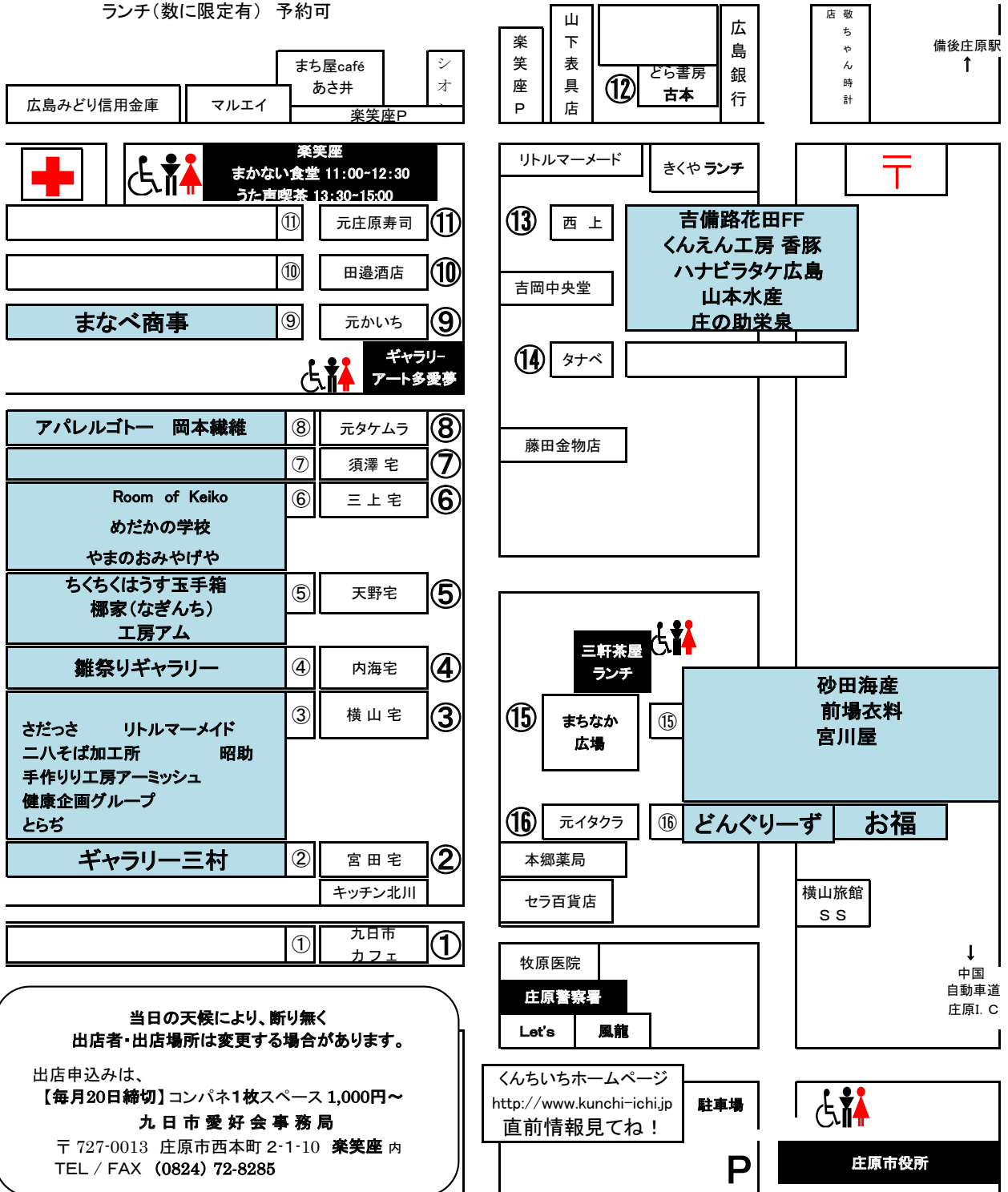
★ 三軒茶屋(0824-72-2037)  
ランチ(数に限定有) 予約可

★九日市フリマ:衣料・日用品・その他無料

★風龍……九日市スペシャル餃子200円

★どら書房…営業時間 9:30~19:00

毎週 月曜日と火曜日はお休み



当日の天候により、断り無く  
出店者・出店場所に変更する場合があります。

出店申込みは、  
【毎月20日締切】コンパネ1枚スペース 1,000円~  
九日市愛好会事務局  
〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 楽笑座 内  
TEL / FAX (0824) 72-8285

くんちいちホームページ  
<http://www.kunchi-ichi.jp>  
直前情報見てね!

駐車場 P  
庄原市役所